

5 地域福祉の課題

統計資料やアンケート、住民座談会などの調査結果を踏まえ、本町の地域福祉が抱える課題を下記の5点に整理しました。

課題1 担い手不足と高齢化

高齢単身世帯など、支援を必要とする人が増加する一方で、地域活動を担う人材は高齢化が進み、担い手が不足しています。さらに、定年年齢の延長などにより、地域活動やボランティアに参加できる時間的・体力的な余裕のある人が少なくなっています。

こうした状況を踏まえ、若い世代の参加を促す工夫や、元気な高齢者の力を地域活動に生かす取組を通じて、担い手の裾野を広げていくことが求められます。

課題2 地域の関係性の希薄化

特に松前校区では、町外からの転入が多いこともあり、若い世代を中心に地域とのつながりが希薄になっています。防犯意識の高まりから、知らない人に声をかけない、挨拶を交わさないといった風潮も、地域の関係性を更に希薄にする要因となっています。

地域の人と顔の見える関係を築くことで、安心感や親しみが生まれ、地域活動に参加するきっかけにもつながります。日常の挨拶や三世代交流などを通じて、住民同士のつながりを少しずつ広げていくことが大切です。

課題3 居場所づくり

地域の人々が集まり、つながりを育むためには、気軽に集える「居場所」が必要です。こうした居場所は孤立の防止にも役立ちます。

課題4 情報発信の見直し

行政や地域団体の取組について、情報が十分に住民へ届いていない現状があります。

アンケート結果では、多くの住民が広報まさきを主な情報源としていますが、住民座談会ではSNS活用の提案も挙がりました。必要な人に必要な支援が届き、地域活動や地域福祉への関心を高めるためにも、広報手段の見直しや、対象となる層に応じた効果的な情報発信の検討が求められます。

課題5 生活支援の充実

買い物や移動手段、ごみ出しなど、日常生活に密着した具体的な支援へのニーズが高まっています。既に支援を行っている団体やサービスもありますが、担い手の減少や負担の増加により、継続が困難な状況です。各地区の実情を踏まえた上で、生活支援の持続可能な提供方法を検討していく必要があります。